

## 辻 秀一

つじ・しゅういち ● 1961年生まれ。北海道大学医学部卒。スポーツ医学とスポーツ心理学をもとにスポーツチームや企業のメンタルトレーニングを行う。エミネクロス代表。(http://www.eminecross.com)



企業経営でも理念のことが強調されるようになってきました。ビジョナリー・カンパニーとか、クレド型会社運営などが言われて久しいようですが、組織においてなぜ理念が必要なのか。目標だけでは駄目なのではないか。会社の目標は儲けること。スポーツチームの目標は勝つこと。ところがどの会社も儲かるわけではないし、どのチームも勝つわけではないのはなぜでしょうか？

組織にはさまざまな人間が集まり、時間を共有し、結果を生み出して行きます。そこには時間という共通のファクターがあります。その同じ時間をどのように過ごし、「何をやるのか」ということが結果を左右します。何をするのかということはとても大事ですが、人それぞれ役割は違います。そんな中でいろいろな人間がその役割を全うしていくには、それぞれにあわせてルールなどを作成しているとキリがありません。そこで、理念という行動のルールを設けることで、一人ひとりがその理念という精神的尺度によって自分の思考や行動を律し、組織に一定の方向性を生み出します。組織理念に沿って自由に考え、自由に行動しながら

### 連載③ 理念を共有する組織の強さ



バスケ・クラブチーム「エクセレンス」の参加者

改めて強調したいと思えます。私が監督を務めるバスケットボールのクラブチーム「エクセレンス」はこの理念共有型のスポーツクラブのトップチームとして、東京都ナンバーワンの実力を誇っています。われわれの目標は全国クラブ選手権優勝です。

も、目標に向かう集団です。理念は目標達成の「理由」

また、理念の価値は他にもあります。組織全体が共有する目標達成の根底にある「理由」でもあるのです。「なぜその目標を達成したいのか」ということをその組織に所属する人間

が共有して理解している。だからこそ、船は一つの目的地へと進むことができるのです。このような組織に一つのベクトルというエネルギーを生みだし、精神的ルールでもあり、目標達成のための理由でもあるこの重要な理念の存在を

理念は、「バスケットボールの存在意義は元氣・感動・仲間・成長を自分が感じ、周囲に伝えること」にあります。そして、そのために一生懸命に楽しくやるといふ精神的ルールを設けています。

実はこうした理念は、このトップチームだけでなく、クラブに所属するキッズのバスケットやチャリデーティングの子供たち、車椅子バスケットのチーム、耳の不自由な人たちのバスケットチーム、高校生のバスケットやチャアのチーム、そして大人のチャアのチーム全員が共有して集まっています。日本初の理念共有型スポーツクラブだと私は思っています。その模範チームとして、自分たちの理念を世の中に知らしめるべく練習し、戦っているチームです。全員がトライアウトという試験を受けて、理念に対する理解や遵守度をバスケットのスキルと同様、大事にチェックしながらチームを毎年結成しています。

クラブチームですから、仕事をしていたり、大学に通っているものたちの集団ですが、理念という共有感で一つになっています。全国にあるバスケットのクラブチーム三〇〇〇あまりの中で、昨年はベスト8、一昨年は三位でした。まだ日本一にはなっていませんが、理念を掲げて活動しているので結果のいかんによらず充実した日々を送ることもできている集団です。読者であるみなさんの企業経営のヒントにしてもらうと同時に、ともに勝てることを願っています。